宮田直彦のエリオット波動レポート

マーケット見通し(短期アップデート) 11 月 6 日 9:55AM 更新

[日経平均・TOPIX]

【当面の想定レンジ】(日経平均) 50,000～65,000 円
(TOPIX) 3400～3950

[NY ダウ・S&P500]

【当面の想定レンジ】(NY ダウ) 45,000～54,000 ドル
(S&P500) 6300～7500

[ナスダック 100]

【当面の想定レンジ】(ナスダック 100) 23,500～28,500
(ナスダック総合) 20,700～25,500

[米ドル/円]

【当面の想定レンジ】 140.000～160.000 円

[ドルインデックス(ドル指数)]

【当面の想定レンジ】 98.000～103.650

エリオット波動とは

株式・為替動向を予想する心強いテクニカル手法

米国人ラルフ・ネルソン・エリオットが提唱した、今後の株式や為替など市場価格の動向を予想する手法です。

相場は 5 つの上昇波と 3 つの下降波（合計 8 つの波）で一つの周期を作るパターンに従って展開するとされます。

このパターンは集団心理によるもので、数分から数十年といった様々な時間軸において観察されます。

フィボナッチ数列、黄金分割比率をチャート分析に初めて導入したのもエリオットです。

© MONEY SQUARE, INC.
This Report is for Authorized Recipients Only and Not for Public Distribution.

日経平均・TOPIX



【週足 エリオット波動分析】

72,831 円(6/22 高値)以来、プライマリー第④波の弱気相場が進行中です。

3 月末(50,558 円)からの週次サイクル(今週は 32 週目)は、弱気相場に特有の「レフト・トランスレーション(右肩下がり)」になる公算が大きいでしょう(上昇期間よりも下げ期間が長くなります)。

現行サイクルでは、上昇期間はフィボナッチ 13 週(両端入れ)の長さでした。サイクル全体は 37 週～53 週(※1)であり、このことから、6 月 22 日(サイクルトップ)からの通算下げ期間は、24 週～40 週(5 カ月～8 カ月)と推定されます。ここからすると、日経平均は 11 月下旬～来年 3 月まで軟調な展開が続くと予想されます。

「レフト・トランスレーション」において、サイクル終点の価格がサイクル始点の価格を(通常は)下回ります。現行週次サイクルは少なくとも 50,558 円を下回るまで続くでしょう(※2)。ちなみに年末値が 50339.48 円未満なら 4 年ぶり年間マイナスとなり、週次サイクル起点の水準にもほぼ合致します。

(※1)週次サイクル期間(2020 年以降の補正後)は 45 週±8 週(37 週～53 週)。
(※2)サイクルの高値から安値まで、下げ率は 10%～26%(平均 17%)。今サイクル安値が 50,558 円未満であると仮定すると、現行サイクルの下げ率は 30%を超えることになる。

© MONEY SQUARE, INC.
This Report is for Authorized Recipients Only and Not for Public Distribution.



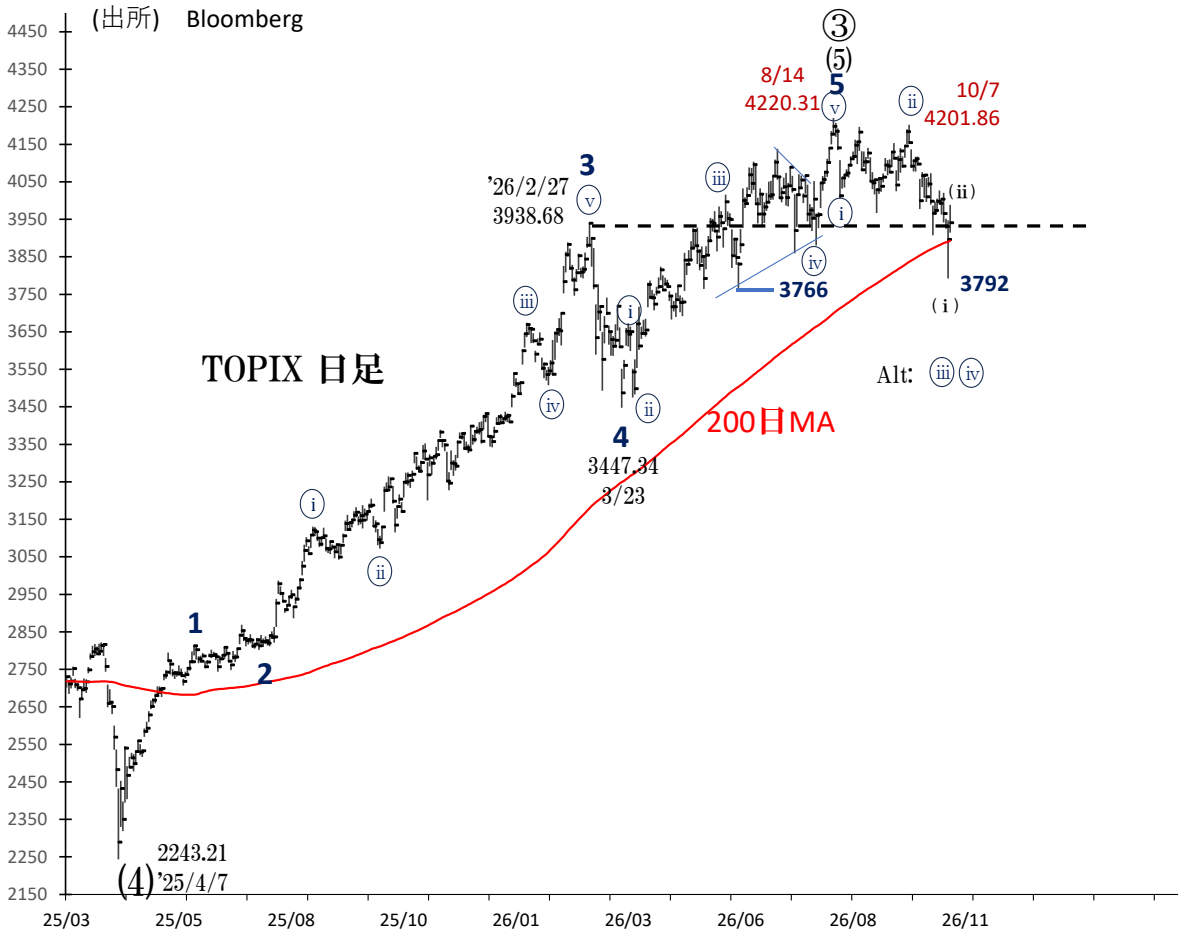
【日足 エリオット波動分析】

11 月 4 日は一時 60,030 円まで下げ、7 月の安値 60,448 円を下回りました。これにより、6 月高値からの弱気波形＝逆 N 字波形（lower-highs, lower-lows）が確定しました。

6 月高値からの通算下落率(17.5%)は、25 年 4 月以降の上昇中でもっとも大きくなりました。
さらに 11 月 5 日の終値が 200 日 MA を明確に下回りました。終値での 200 日 MA 割れは 25 年 6 月以降で初めてです。改めて弱気トレンド入りが確認されたといえるでしょう。

前述のように、今年 3 月安値（50,558 円）からの週次サイクルは、早ければ今月の下旬～年末に、50,558 円を下回る展開を示唆しています。ここからの下落は一段と加速する可能性があり、衝撃に備える必要があります。

© MONEY SQUARE, INC.
This Report is for Authorized Recipients Only and Not for Public Distribution.



[TOPIX]

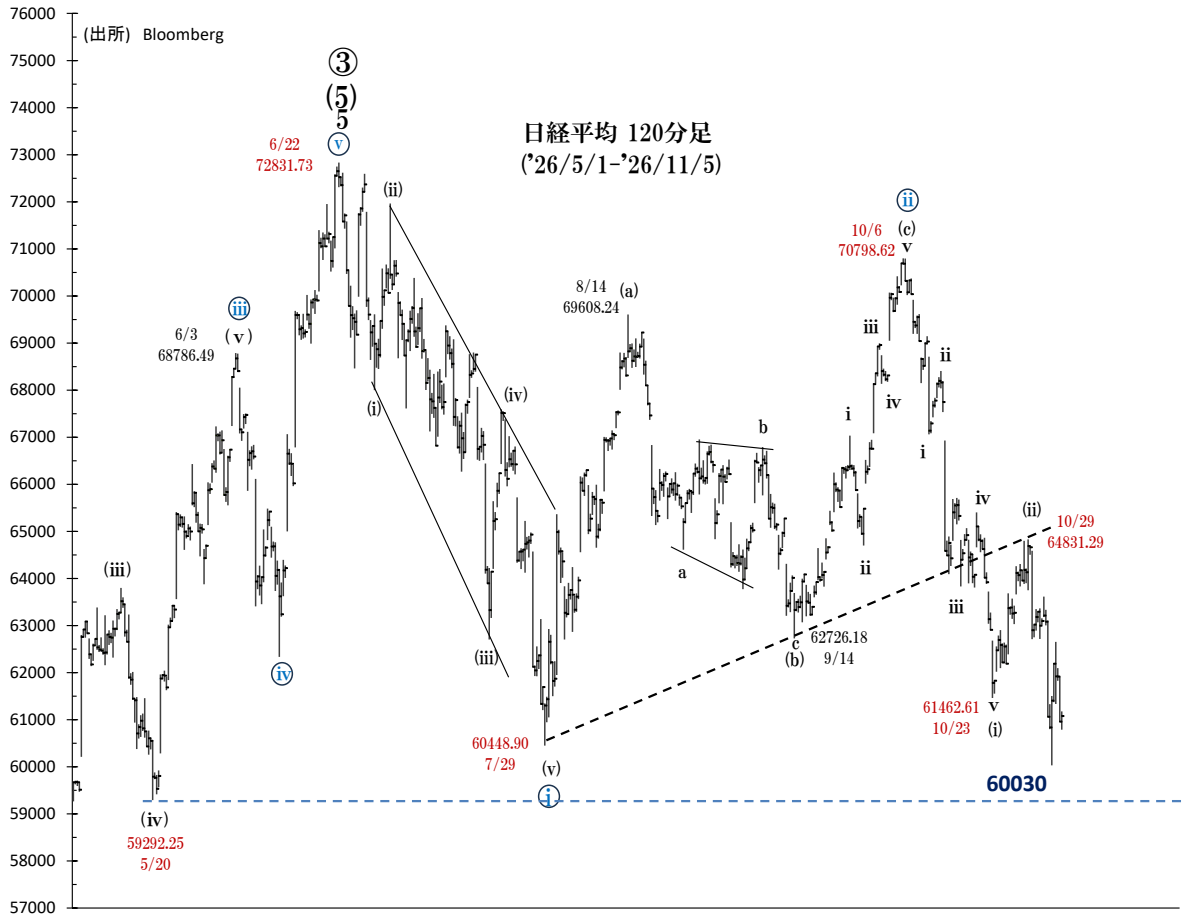
TOPIX は 8 月 14 日に 4220 でピークを付け―6 月ピークの日経平均とは未確認でした―プライマリー④波が進行中です。8 月 14 日高値から 11 月 4 日安値まで 10%下げましたが、第④波は今後も続くでしょう。最終的に第④波の下げは、第②波(2018 年 1 月～20 年 3 月)の下げ率(37.2%)と同程度か、あるいは凌駕するスケールになると思われます。

11 月 4 日、一時およそ 5 カ月ぶり安値(3792)まで下げましたが、急速に下げ渋りました。日中取引では 200 日 MA を大きく下回っていましたが、終値では維持しました。

上述のように調整はまだ続く公算が大きく、終値ベースで 200 日 MA(3892)を下回るのは時間の問題でしょう。

次はマル iii 波-(iii)波による下落を想定していますが、この場合、3766(6/11 安値)を下回る展開になりそうです。

© MONEY SQUARE, INC.
This Report is for Authorized Recipients Only and Not for Public Distribution.



[日経平均・120 分足]

70,798 円(10/6 高値)から、マル iii 波による下げトレンドが進行中です。さらに 29 日高値・64,831 円から、マル iii 波中第(iii)波「サード・オブ・サード」による強い下げが進行中です。

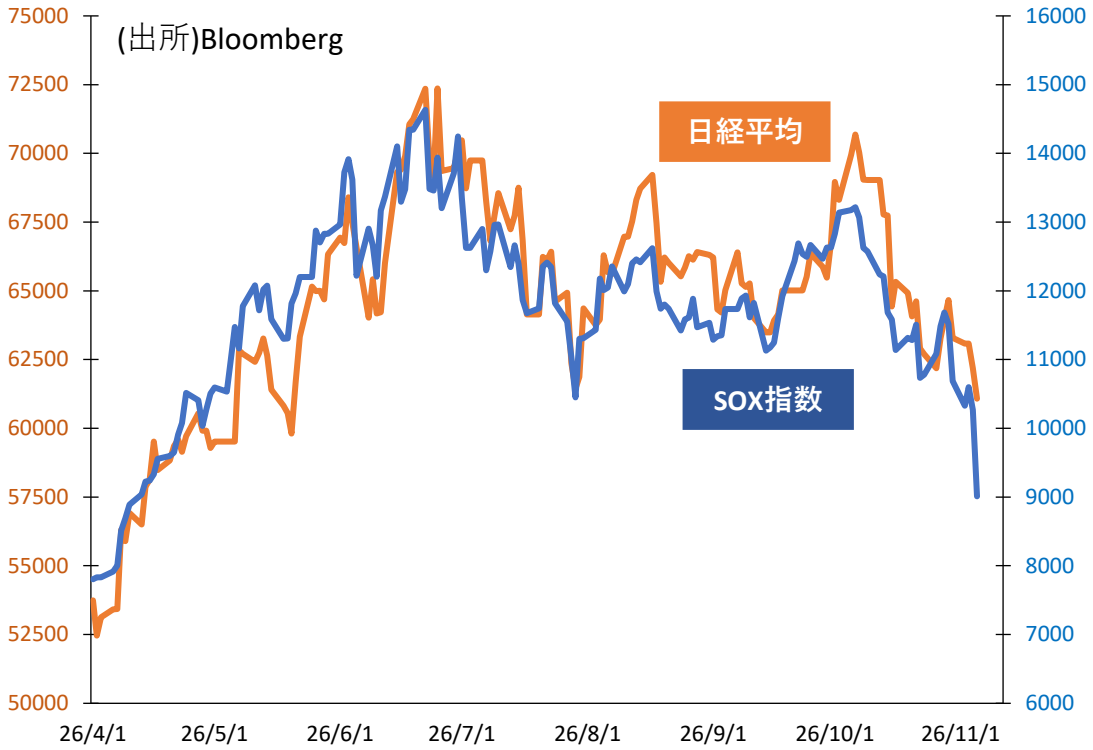
マル iii 波の下げ幅は、控えめにみてマル i 波と同じスケール(1 万 2382 円幅)が想定され、この場合の下値目標は[58,415 円]です。

通常はマル i 波の長さに対し 1.618 倍がマル iii 波の長さであり、ノーマルな目標値は[50,763 円]です。

© MONEY SQUARE, INC.
This Report is for Authorized Recipients Only and Not for Public Distribution.

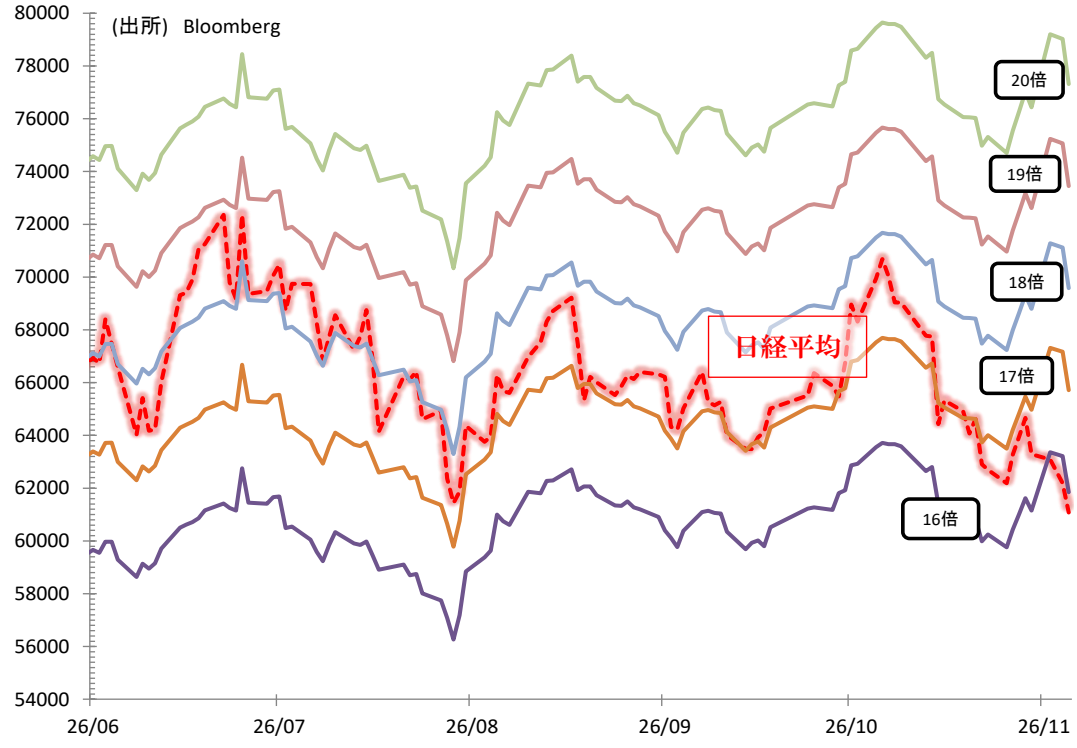
日経平均と SOX 指数

日経平均と SOX 指数はシンクロしています。SOX 指数は 7 月安値を割り込んでおり、それに日経平均がキャッチアップする展開が予想されます。



[予想 PER 別の日経平均水準]

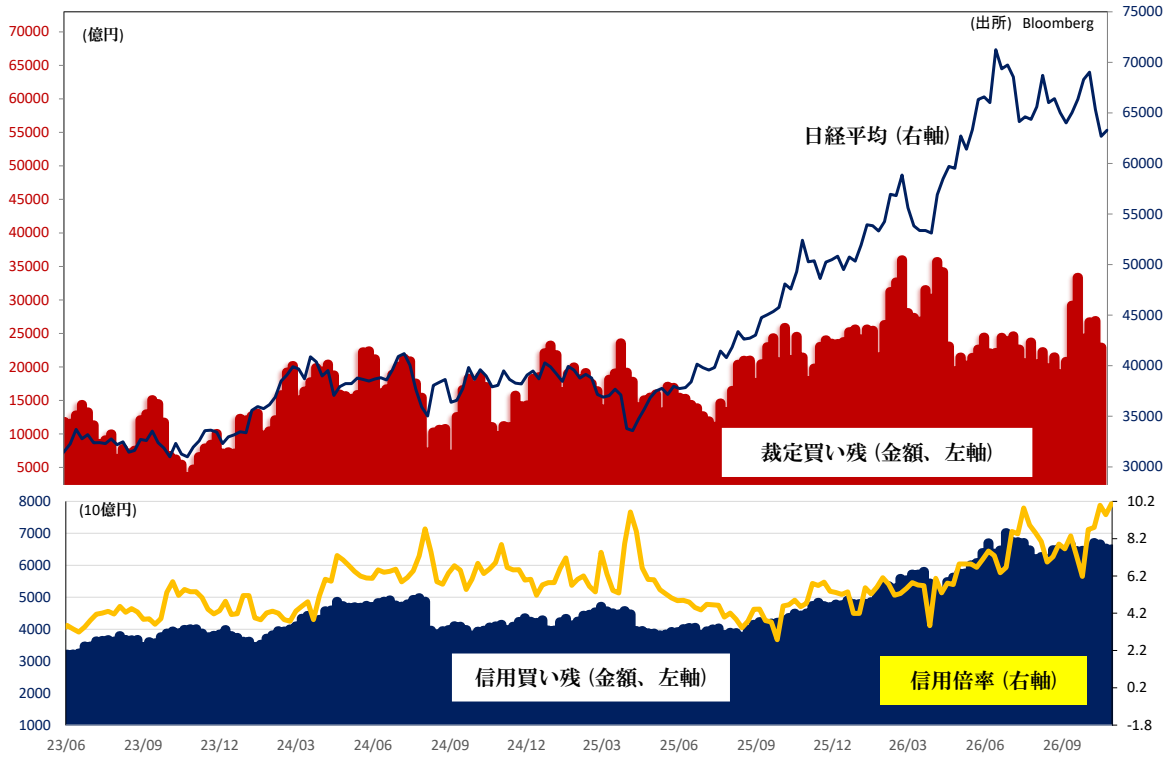
11 月 5 日の日経平均予想 PER は 15.80 倍、予想 EPS は 3865 円。過去最高は 3982 円(10/6)です。



© MONEY SQUARE, INC.
This Report is for Authorized Recipients Only and Not for Public Distribution.

[裁定買い残と信用買い残] (10 月 30 日時点)

10 月第 4 週(26～30 日)に日経平均は 0.95%上昇。裁定買い残高は 2 週続けて減少しました。
信用倍率(金額ベース)は前週の 9.48 倍から 10.10 倍に上昇し、2005 年以降の最高水準を記録するとともに初の 10 倍乗せとなりました。



© MONEY SQUARE, INC.
This Report is for Authorized Recipients Only and Not for Public Distribution.

NY ダウ・S&P500



【NY ダウ 30 日足 エリオット波動分析】

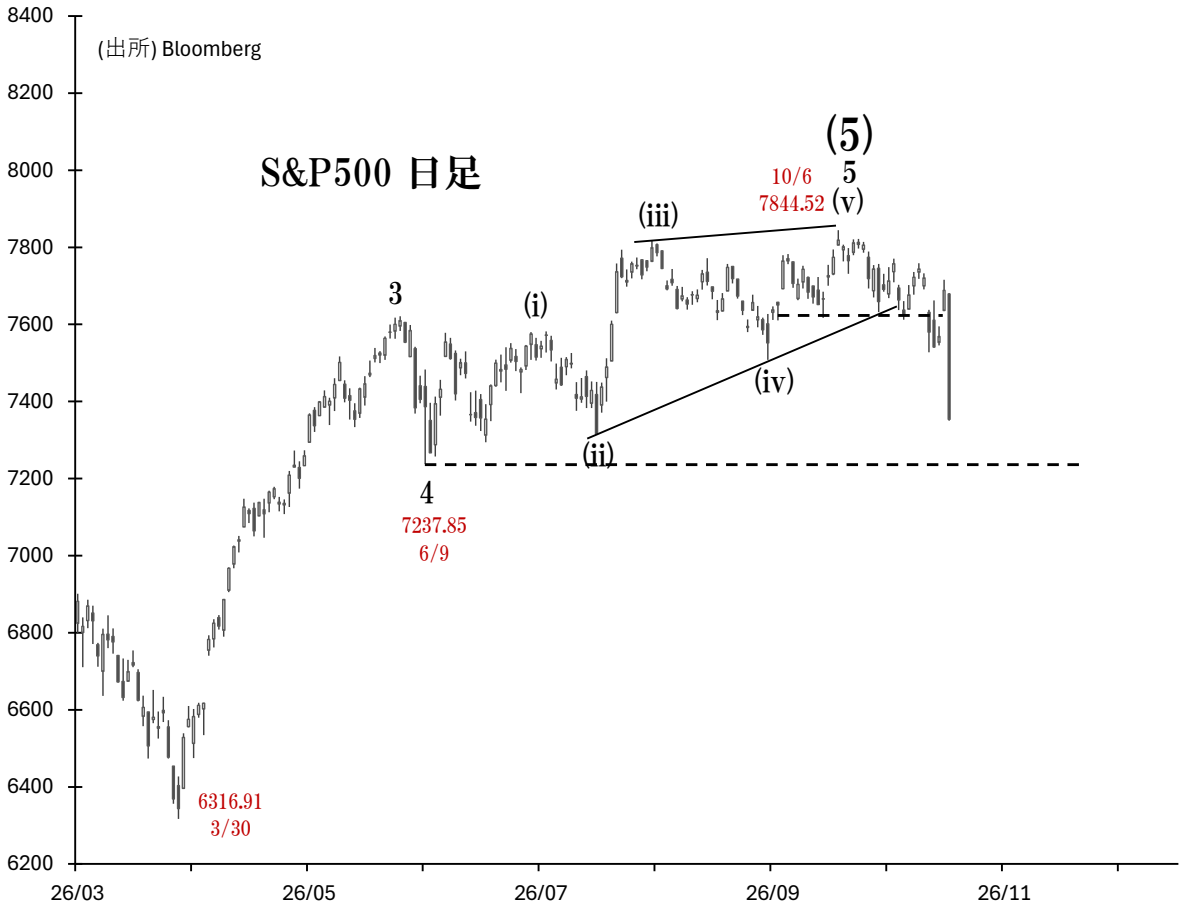
NY ダウは、4 月下旬からの「メガホントップ」天井パターンからの下放れが続いています。
最初の下降波(マル i 波)は 50546 ドル(10/1 安値)で完成し、そこからはマル ii 波のリバウンドです。

11 月 5 日は、一時 53,710 ドルまで上昇しましたが、一転下落となり、51,523 ドルとほぼこの日の安値で引けました。日中の値幅は 2000 ドルを超え、前日の大陽線のすべてを包む長大な陰線となりました。典型的なリバーサルデーであり、この日の高値を以てマル ii 波は終わり、マル iii 波の下落に入ったとみることができます。

200 日 MA(現在 50,666 ドル)がサポートですが、それをブレイクするのは時間の問題でしょう。200 日 MA 割れ以降、3 月からの上昇の半値押し[49,900 ドル]、3 月からの上昇に対する 61.8%押し[48,757 ドル]などを目指すでしょう。

なお第(iii)波自体は、より大きな弱気に発展する可能性があります。

© MONEY SQUARE, INC.
This Report is for Authorized Recipients Only and Not for Public Distribution.



【S&P500 日足 エリオット波動分析】

10 月 6 日の高値(7844)を以て、25 年 4 月安値以来の第(5)波完成は完成し、調整局面が始まりました。

足元、天井パターンの「エンディング・ダイアゴナル」から下放れたところです。目先的にも 7237(6 月安値、ダイアゴナル始点)に向けた下げが続くでしょう。

© MONEY SQUARE, INC.
This Report is for Authorized Recipients Only and Not for Public Distribution.

SOX 指数

10 月 6 日高値(13,349)から下降第(iii)波が進行中です。
11 月 5 日はギャップダウン。第(iii)波の第 iii 波（サード・オブ・サード）に相応しく、この日だけで 12.25%の暴落です。

この日は一時 8997 まで下落し、最初の目標値として想定された 9140 を達成しました。6 月の最高値（14,655）からの下げは 38.6%(黄金分割)となり、短期的には下がり過ぎの反動があるかもしれません。

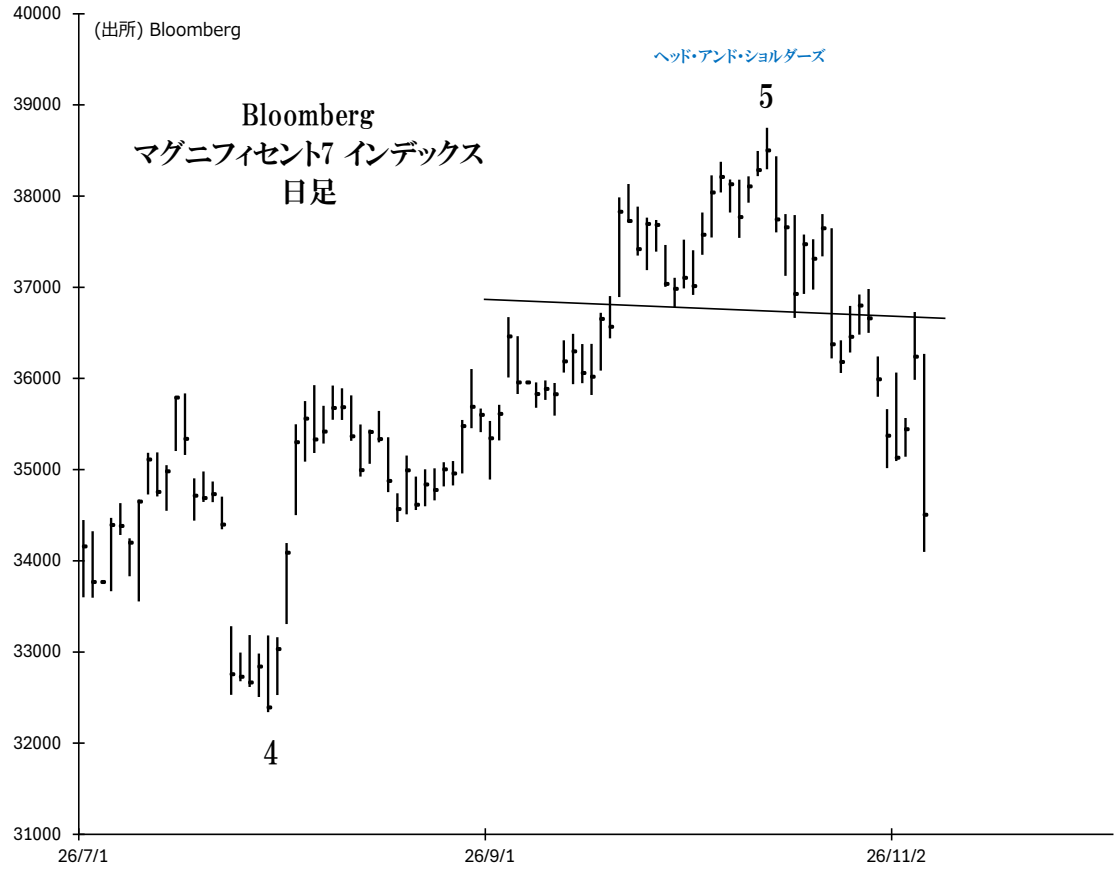
もっとも最終的な底打ちはまだ先のことでしょう。
半導体株ブームは終わり、SOX 指数はバブル崩壊のプロセスを辿っているとみられます。
この先は 6 月高値の 50%-61.8%押し[7327-5598]へ下押す可能性があり、引き続き警戒を要します。



Bloomberg マグニフィセント 7 インデックス

10 月 29 日、日足はギャップダウン。ヘッド・アンド・ショルダーズからの下放れを開始しました。引き続き、下振れリスクが高いと思われます。

© MONEY SQUARE, INC.
This Report is for Authorized Recipients Only and Not for Public Distribution.

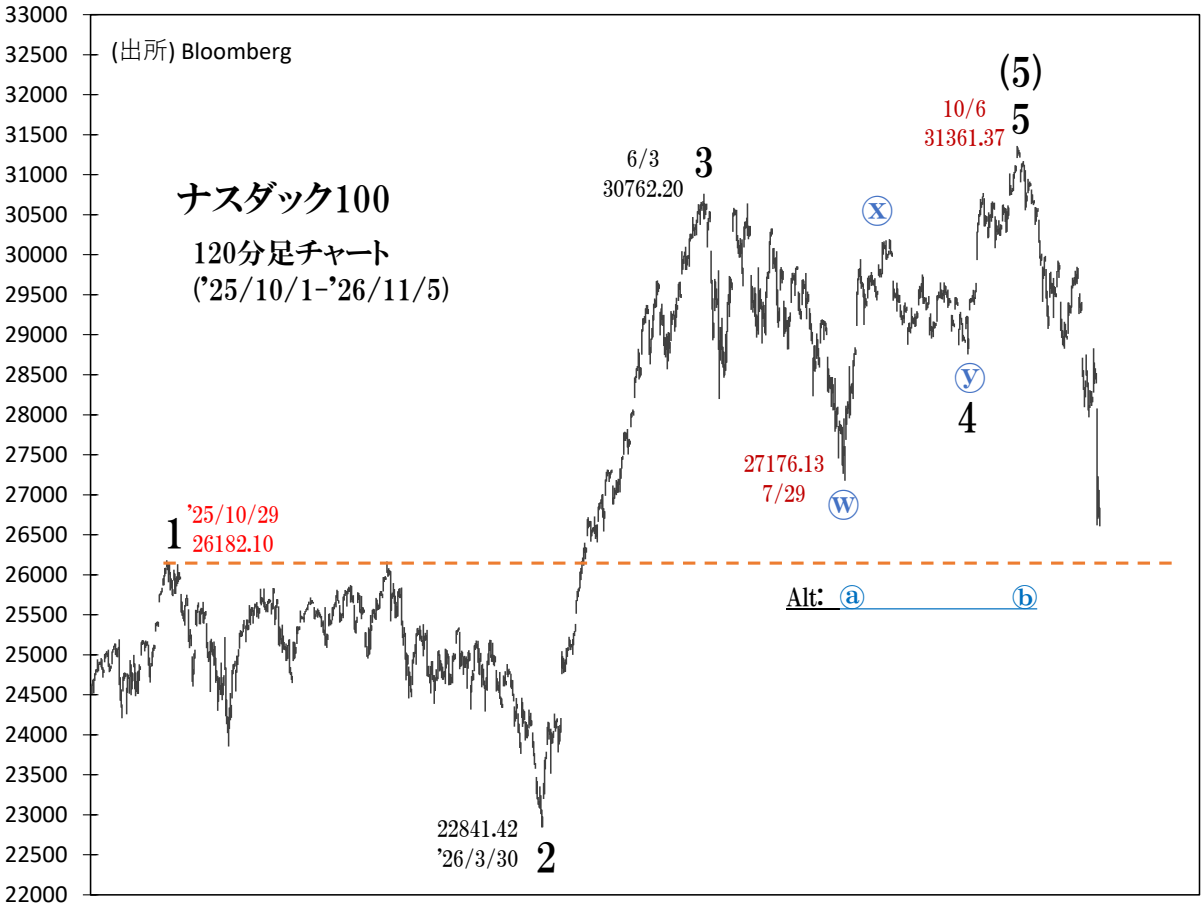


[ダウ輸送株平均]



© MONEY SQUARE, INC.
This Report is for Authorized Recipients Only and Not for Public Distribution.

ナスダック 100



【ナスダック 100 時間足 エリオット波動分析】

11 月 5 日は 6.36%の下げとなり、7 月安値を下回りました。10 月高値(31,361)からの下げ率は 15%に達しており、定義上の「調整相場」に入ったことになります。

短期的には 25 年 10 月高値・26,182 を維持するかがポイントです。それを割ると、下落モメンタムは一段と強まり、3 月安値(22,841)を早々に試す可能性があります。

(オルタナティブカウント、Alt)

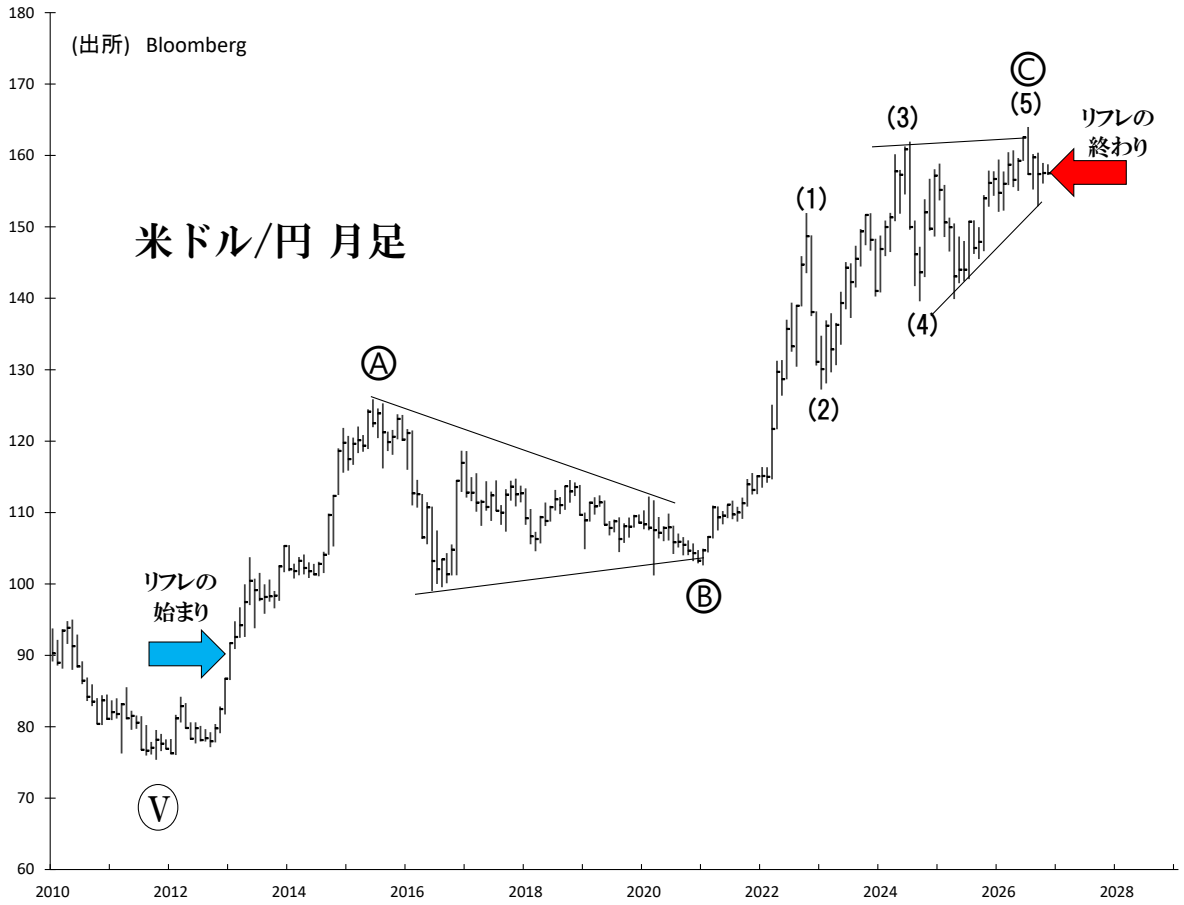
インターミディエイト第(5)波におけるマイナー第 4 波が「エクスパンディッド・フラット」で展開しており、31,361(10/6 高値)からはマル c 波に相当します。マル c 波は 26,182 を割ることはありません。

一方 26,182 を一時的にも下回れば、今がマイナー第 4 波という見方は却下され、本格的なベアマーケット入りを確認します。

※なお、ナスダック総合指数の 25 年 10 月高値(24,019)を割れるかも、ナスダック 100 同様に注目です。総合指数の 5 日安値は 24,262 であり、節目に近づいています。

© MONEY SQUARE, INC.
This Report is for Authorized Recipients Only and Not for Public Distribution.

米ドル/円



【月足・エリオット波動分析】

日米実質金利差から導かれる米ドル/円の水準は、現在 1 ドル=144-145 円程度です。
さらに、購買力平価からの妥当な円相場は OECD 算出の GDP ベースで 1 ドル=97 円～103 円です。
短期的にも長期的にも、日本円の過小評価が続いています。

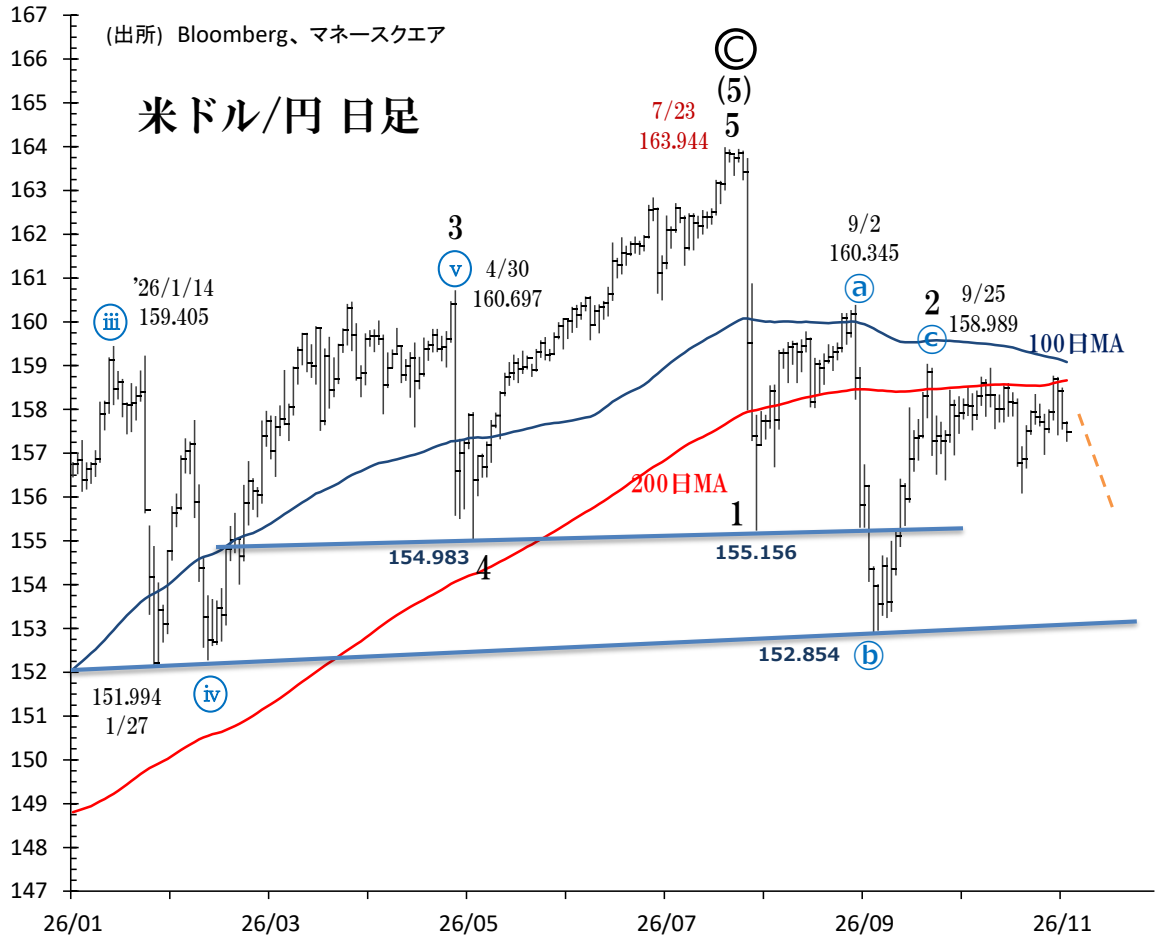
この先は数年間にわたる円高になるでしょう。7 月末の日米協調円買い介入は、長期円安終了のサインでした。長らく日本円はその実力に比べ過小評価されてきましたが、今後は実力に見合った適正な水準が模索されていくと思われます。

他にも長期的な円安終了の証左として、「リフレ終了」をあげることができます。
2013 年 1 月【政府・日銀が物価安定目標 2%を掲げる】…「リフレ政策の始まり」
2026 年 10 月【日銀、物価目標 2%到達と判断】・・・「リフレ政策の終わり」

2013 年 1 月当時は 1 ドル=90 円程度でした。そこから 26 年 10 月までの 13 年 9 カ月(165 カ月) は、まさに円安の時代といえますが、それが新たな時代に変わろうとしています。

筆者は今後数年内(2028 年?)に、1 ドル=120 円-125 円を付けてもおかしくない、とみています。それは歴史的なレンジ[80 円-160 円]の中値に相当し、かつて「黒田シーリング」と言われた水準でもあります。

© MONEY SQUARE, INC.
This Report is for Authorized Recipients Only and Not for Public Distribution.



【日足 エリオット波動分析】

(想定しているような)強い円高はまだ起きていません。それでもドル/円は 1 カ月以上にわたって 200 日 MA で上値を抑えられ、日本円の年初来パフォーマンスは主要通貨間で上位に位置づけています。消去法的とはいえ、日本円は選好されています。

AI・半導体株ブームの終焉と世界的な株安の連鎖が、現実味を帯び始めています。そんな中で、今後「リスク回避の円買い」が強まる可能性は高い、とみています。

158.989 円(9/25)から、第 3 波(ドル安・円高)に入った可能性がある、と引き続きみています。

第 3 波により、「複合型ヘッド・アンド・ショルダーズ」のネックライン＝152 円処が近々試されるでしょう。

152 円処は、25 年 4 月(139.577 円)からのドル/円上昇の半値戻り[151.910 円]に相当し、今年 1 月 27 日の安値 151.994 円でもあります。

心理的節目の 150 円も視野に入り、その直下には 61.8%戻り水準[149.070 円]が控えています。

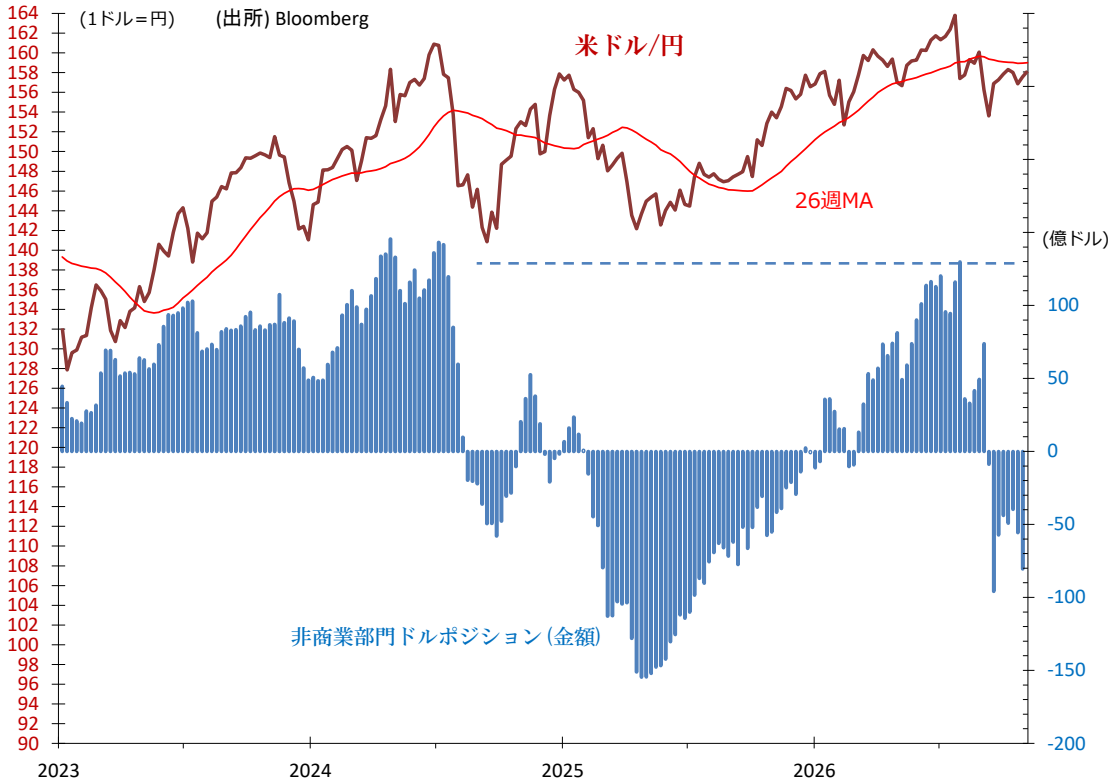
複合パターンに基づくターゲットは、①145 円-146 円、②141 円です。

金利差からのドル/円推計値

足元、日米実質金利差からのドル/円推計値は[144.425 円]です。

© MONEY SQUARE, INC.
This Report is for Authorized Recipients Only and Not for Public Distribution.



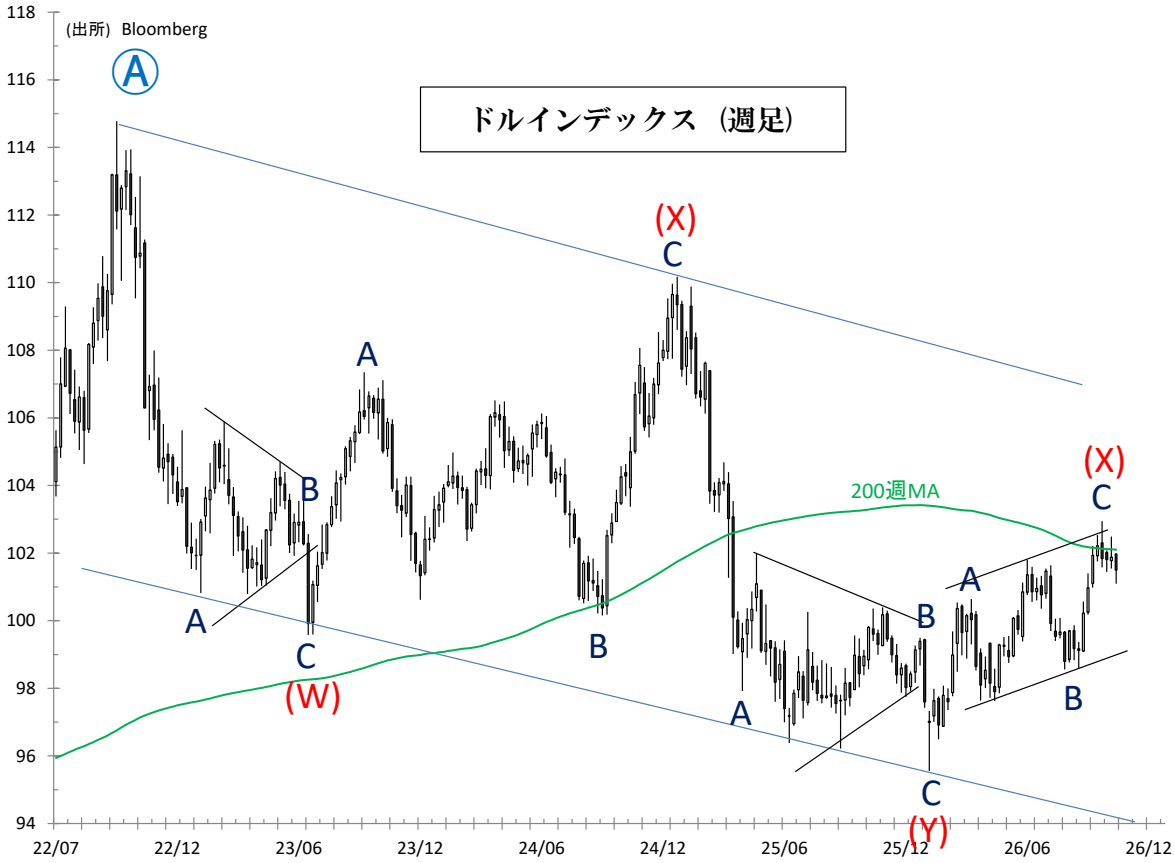


円買い持ち高が 2 週続けて拡大（2026 年 10 月 27 日時点）

IMM 通貨先物市場で投機筋（非商業部門）による円買い持ち高は、前週の 55.70 億ドルから 80.59 億ドルへ拡大しました。

© MONEY SQUARE, INC.
This Report is for Authorized Recipients Only and Not for Public Distribution.

ドルインデックス（ドル指数）



【エリオット波動分析】

今年 1 月からのドル高・(X)波は A-B-C 編成ですが、そのうち B 波「フラット」は 98.557(8/21)で完了し、以降のドル高は C 波に位置付けられます。

10 月 14 日高値(102.945) は(Y)波(25 年 1 月～26 年 1 月)の半値戻り[102.864]に一致しています。それに加え、200 週 MA も強いレジスタンスとして機能しているようです。200 週 MA は低下基調にあり、長期のドル安トレンドを示唆しています。

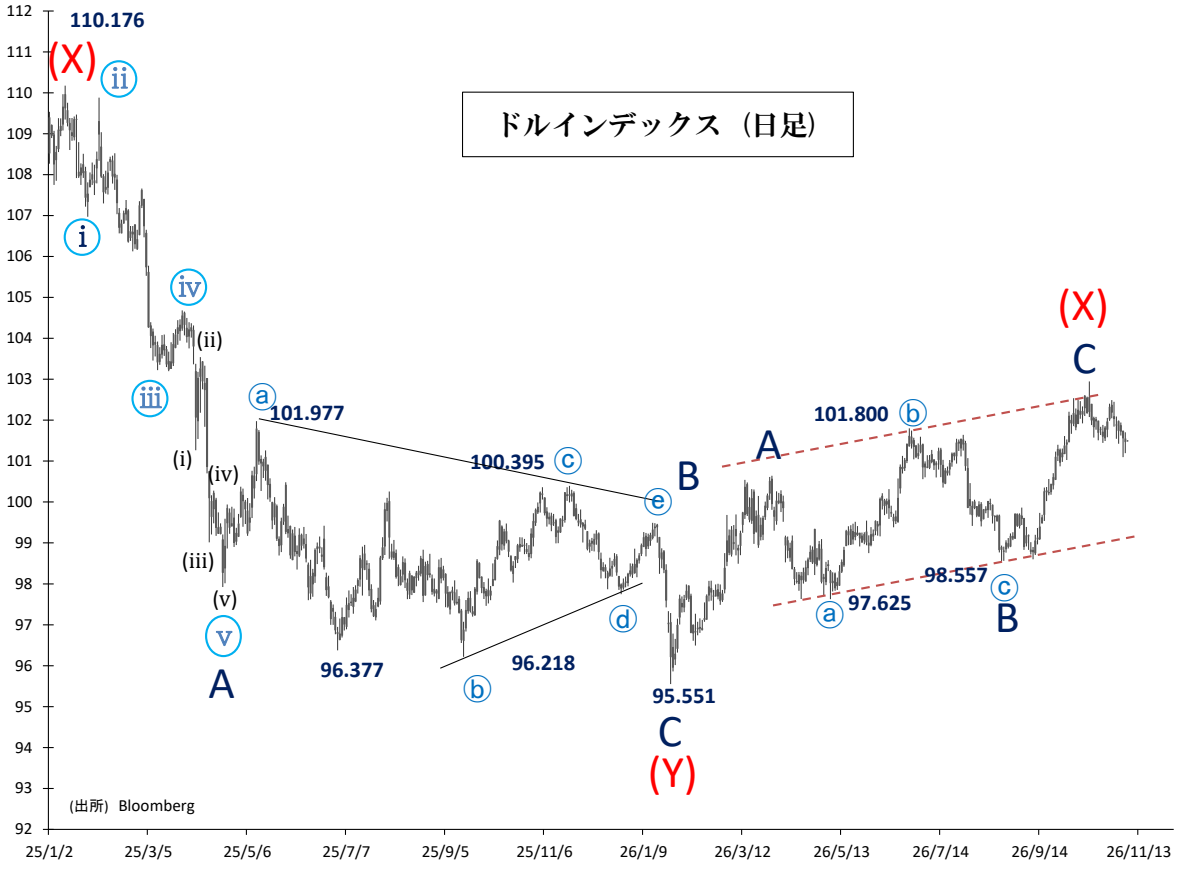
需給面においても、投機筋によるドル買い持ち高は再び歴史的高水準に拡大しています。この点からも、C 波及び(X)波はいつ終わってもおかしくなく、そうであれば、ドル安トレンドの再開が近いと思われます。

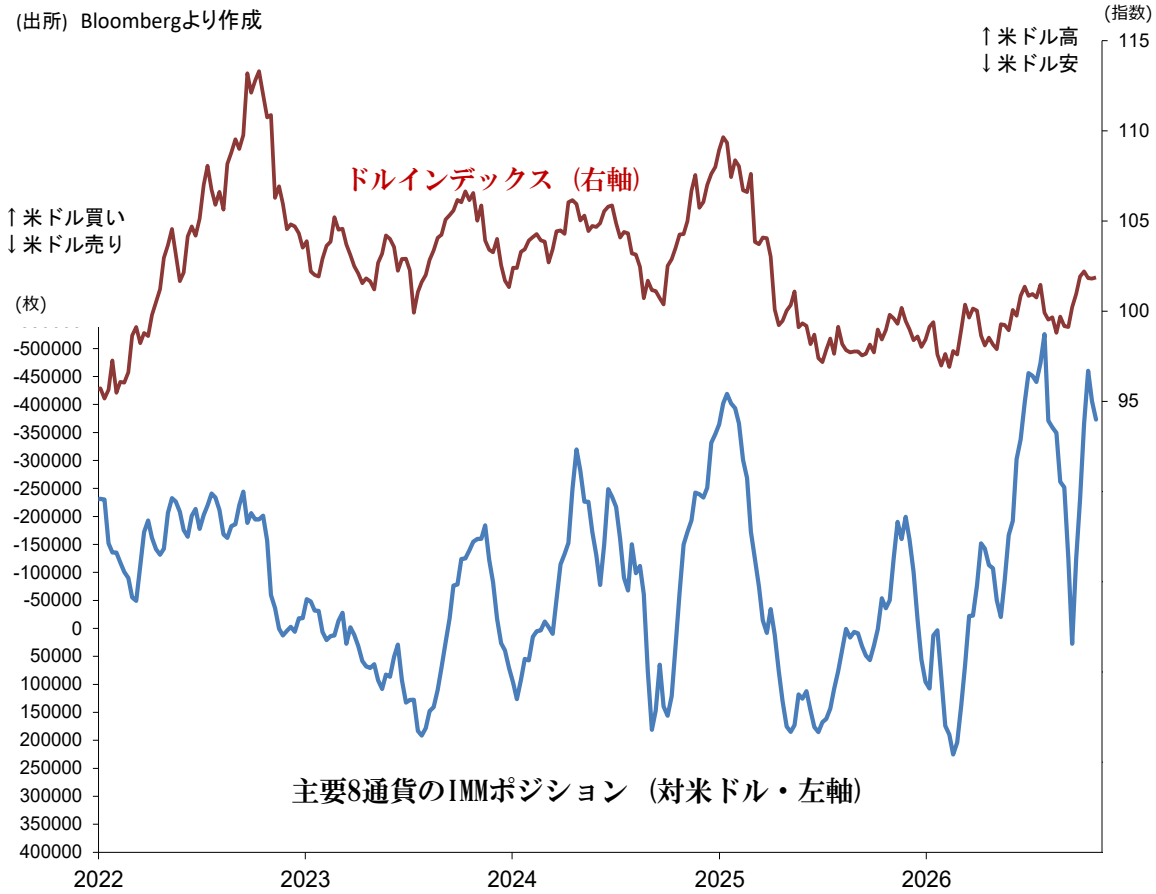
一方、ドル高基調がまだ続くなら、[103.654](A 波と C 波が等しく上がる水準)が節目となります。

投機筋のドル合成ポジション買い持ちは高水準を維持(2026 年 10 月 27 日時点)

投機筋によるドル合成ポジションのドルの買い持ちは、37 万 3352 枚。前週 40 万 6343 枚から減少しました。買い持ちの減少は 2 週連続ですが、引き続きドル買い持ち高は過去最大級です。

© MONEY SQUARE, INC.
This Report is for Authorized Recipients Only and Not for Public Distribution.





© MONEY SQUARE, INC.
This Report is for Authorized Recipients Only and Not for Public Distribution.

※当レポートは、情報提供を目的としたものであり、特定の商品の推奨あるいは特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。
※当レポートに記載する相場見通しや売買戦略は、ファンダメンタル分析やテクニカル分析などを用いた執筆者個人の判断に基づくものであり、予告なく変更になる場合があります。また、相場の行方を保証するものではありません。お取引はご自身で判断いただきますようお願いいたします。
※当レポートのデータ情報等は信頼できると思われる各種情報源から入手したものですが、当社はその正確性・安全性等を保証するものではありません。
※相場の状況により、当社のレートとレポート内のレートが異なる場合があります。

当社サービスに関しての注意事項

・取引開始にあたっては契約締結前書面をよくお読みになり、リスク・取引等の内容をご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願いいたします。

・当社の店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引は、元本および収益が保証されているものではありません。また、取引総代金に比較して少額の資金で取引を行うため、取引の対象となる金融商品の価格変動により、多額の利益となることもありますが、お客様が差し入れた証拠金を上回る損失が生じるおそれもあります。また、各金融市場の閉鎖等、不可抗力と認められる事由により店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引が不能となるおそれがあります。

・店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引における取引手数料は無料です。

・当社が提示するレートには、買値と売値に差（スプレッド）があります。流動性が低くなる場合や、天変地異または戦争等による相場の急激な変動が生じた場合、スプレッドが広がることがあります。

・店頭外国為替証拠金取引に必要な証拠金額は、個人のお客様の場合、取引総代金の 4%以上です。法人のお客様の場合、取引総代金に、金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの証拠金率（為替リスク想定比率）を基に当社が算出した証拠金率を乗じた金額となります。為替リスク想定比率は、金融商品取引業等に関する内閣府令第 117 条第 27 項第 1 号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。なお、証拠金率（為替リスク想定比率）は変動いたします。店頭 CFD 取引に必要な証拠金額は、取引総代金の 10%です。

――
金融商品取引業 関東財務局長（金商）第 2797 号
【加入協会】日本証券業協会　　一般社団法人 金融先物取引業協会
株式会社マネースクエア
――

© MONEY SQUARE, INC.
This Report is for Authorized Recipients Only and Not for Public Distribution.